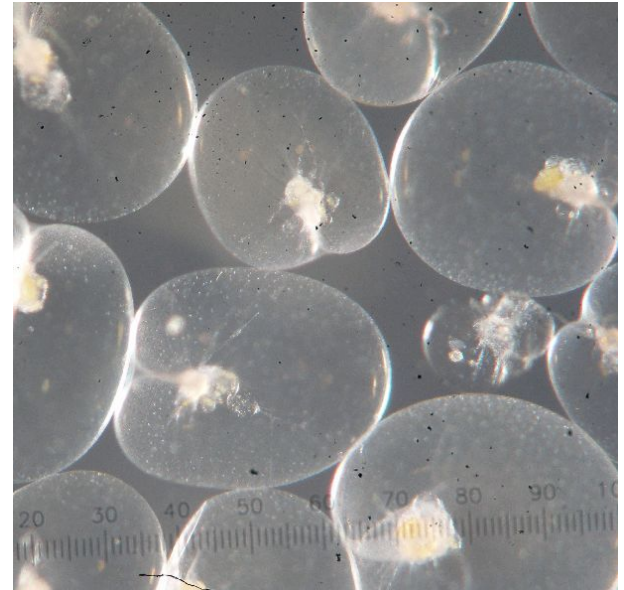


## ノクチルカ赤潮（夜光虫）について

赤潮とは、プランクトンが異常に増殖して、海面が色づいて見える現象を言います。原因となるプランクトンの種類により色の変化は様々ですが、島根県の沿岸で最も一般的な赤潮は「ノクチルカ」によるものです。このプランクトンは、大きさが約1mm、夜に青白く発光することから「夜光虫」と呼ばれています。大量に発生すると、海がピンク～オレンジ色に染まったように見えます。ノクチルカによる赤潮は、島根県では春になると毎年必ず発生しますが、毒性はないので、むしろ春の海の風物詩的現象と言えます。



2008年3月に浜田で発生した  
ノクチルカ赤潮



ノクチルカ シンチランスの  
顕微鏡写真 1細胞は約1mm

【種名】ノクチルカ シンチランス (*Noctiluca scintillans*)  
植物プランクトンの渦鞭毛藻類に分類される。

【大きさ・形】直径0.15～2mm、球形

【発生時期】島根県では主に3月中旬～6月に発生。平成19年には  
暖冬の影響からか2月中旬に確認された。

【漁業被害】島根県で本種による被害報告はなし。